

The page features a minimalist design with two overlapping circles and a horizontal line. The larger circle is on the left, and the smaller one is on the right, overlapping its right side. A horizontal line passes through the center of both circles. The main title is positioned on the line, overlapping the circles.

諸活動の新聞記事・広報関係パンフレット

- ・新聞記事（抜粋）
- ・広報パンフレット
- ・東亜同文書院大学記念センター通信

◎ 新聞記事

東日新聞 8月7日(月)

文科省の学術研究 高度化推進事業に選定される

愛知大学東亜同文書院記念センター



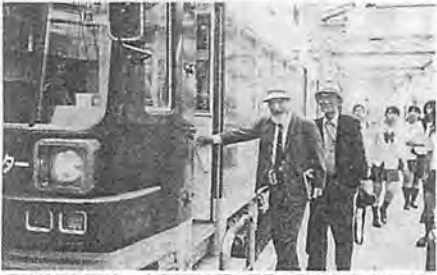
講演の会場に集まる安澤氏と藤田センター長(文)

愛知大学・東亜同文書院記念センターが、文科省の平成17年度「学術研究高度化推進事業」(トップ・リサーチセンター)推進事業に選定された。

愛知大学が創立100周年を記念して、東亜同文書院記念センターが、文科省の平成17年度「学術研究高度化推進事業」(トップ・リサーチセンター)推進事業に選定された。

文科省は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学について、研究開発の公認、基礎研究の「ア・エス・エス」(A・S・S)の認定を受けた。

東亜同文書院記念センターは、愛知大学の前身である東亜同文書院大学について、研究開発の公認、基礎研究の「ア・エス・エス」(A・S・S)の認定を受けた。



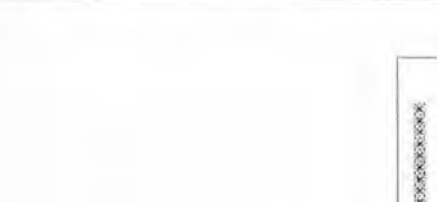
豊鉄ができて81年、大騒ぎで市電に乗る安澤氏(左)と中島氏



東亜同文書院と我が生涯の100年



第1回講演を知らせるチラシ



豊橋公園入り口で、棒状鏡なる彫像でポーズをとる

「愛知大学の歴史の軌跡」をテーマにした講演会が、愛知大学東亜同文書院記念センターで開かれた。

講演会には、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の歴史を振り返る内容が盛り込まれた。

講演会には、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の歴史を振り返る内容が盛り込まれた。

講演会には、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の歴史を振り返る内容が盛り込まれた。

講演会には、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の歴史を振り返る内容が盛り込まれた。

東日新聞 9月21日(木)

「創立に奔走した妻が伝わる」

本間喜一と愛知 長女の殿岡さん来校



長崎市内で展示会を開く

愛知大学豊橋校舎開校20周年、4代学長を務めた本間喜一と愛知 長女の殿岡さん来校。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

本間喜一は、愛知大学の前身である東亜同文書院大学の創立に奔走した人物として知られている。

東日新聞 9月25日(月)

「本間喜」と愛知大学創成期

愛知大学非常勤講師 佃隆一郎

市制100周年は、本間喜(名籍喜)とその所、東海閣文庫の長女・長岡福子(元院の教授)と学立の歴史を振り返る。本間喜は、大学の歴史を語る上で欠かせない人物である。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。



資料の説明をする長岡さん(センター研究員)

11月に本格的パネル写真展

長女の長岡さんが資料や写真チェック



サロンのプレ写真展会場場で説明を受ける武田学長(左)と長岡さん(右)

「本間喜」関連文庫を、また中継の返送までは、と題する「東海閣文庫」展が、愛知大学創成期を振り返る。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。

東日新聞 10月20日(金)

創成期の群像メインに

愛知大学「写真、パネル展」準備進む



準備を進めるスタッフ(愛知大学豊橋校舎で)

愛知大学(豊田)文庫、パネル展「地域」の創成期の群像をメインに、愛知大学創成期を振り返る。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。

東愛知新聞 10月29日(日)

愛大を創った人たちに触れて

中西 千香

現在愛知大学東海閣文庫、年々の準備の下、プロジェクトは、愛知大学創成期を振り返る。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。

世代越えた貴重な出会い



愛知大学創成期を振り返る。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。

東日新聞 12月2日(土)



長岡福子さん

愛知大学創成期を振り返る。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。本間喜は、愛知大学創成期の中心人物として活躍した。

寄稿

愛知大学オープンリサーチセンターの事業として、11月13日から創立60周年記念写真・パネル展「愛知大学創成期の群像」地域と共に60年が愛大の豊穡・名古屋・道おもひ三好の各キャンパスで開催されている。同展の目的や概要についてはすでに東日新聞でも数回紹介したので、こ



講師の殿岡辰子さん(左)、実行委員長・越知専さん、センター長・藤田佳久さん



講演終了後「第二部手相拝見」に集まる皆さん、1時間30分に15人が手相診断を受けた(写真は堀真入総務課長提供)

「我が父本間喜一と愛知大学」

愛知大学非常勤講師 佃 隆一郎

存じの人も多いかと聞くと、がいよいよ同展も16日までとなった。このことになり、7日午後、度、開演前のイベントとして企画された故・本間喜一が父本間喜一と愛知大学。東亜同文書院大学を語る」が、豊橋キャンパス研究館で行われた。この研究会にはオープンリサーチセンター運営委員をはじめとする学内外の関係者有志が詰めかけ、さらには殿岡氏から本間喜一関係資料持参の連絡を受けた、現在本間氏ら愛知大学「創設者」の伝記を執筆中のライター・加藤勝美氏(大阪府在住)も加わり、役者がパネル展制作責任者・越知専氏の司会のもと、「第二部」として、氏のリサーチセンター長・藤田佳久教授のあいさつで始まった研究会は、本間の青年期から中国・上海の東亜同文書院への赴任、敗戦による同大学の閉校後の愛大創成、そして晩年までの公私にわたる経歴やエピソードについて、殿岡氏の父親譲りのユーモアを交えた軽妙な講演により、終始なごやかに進められた。パネル展で使用している各画像をパソコンによる大スクリーン映し出しながら説明して下さる方式が、とてもしみじみと感謝していたことなどから、本間氏が再入学できた理由に非常に役立ったことである。講演終了後は「第二部」として、氏の特技である手相診断が催

愛知大学の創成期を知る企画展

愛知大学創立60周年記念写真・パネル展「愛知大学創成期の群像」地域と共に60年が愛大の豊穡・名古屋・道おもひ三好の各キャンパスで開催されている。同展の目的や概要についてはすでに東日新聞でも数回紹介したので、この

林毅陸 (1872-1950)
元慶大塾長が初代学長に
林毅陸は、慶應義塾で学んだ。慶應義塾の塾長として、慶應義塾の発展に貢献した。愛知大学創成期の中心人物として、愛知大学の発展に貢献した。

創立60周年記念の写真パネル展

本間喜一 (1891-1987)
創設期の中心人物
本間喜一は、愛知大学の創設者の一人として、愛知大学の発展に貢献した。愛知大学の創成期の中心人物として、愛知大学の発展に貢献した。

小岩井浄 (1897-1959)
常に弱者の味方
小岩井浄は、愛知大学の創設者の一人として、愛知大学の発展に貢献した。愛知大学の創成期の中心人物として、愛知大学の発展に貢献した。

各キャンパスの開館日程
愛知大学は、名古屋、豊橋、三好の各キャンパスで、創立60周年記念写真・パネル展を開催する。各キャンパスの開館日程は以下の通りである。

東亜同文書院
前身は中
東亜同文書院は、愛知大学の前身として、愛知大学の発展に貢献した。愛知大学の創成期の中心人物として、愛知大学の発展に貢献した。

東日新聞 11月14日(火)

先人たちの「歩み」たどる

建学十年 建学園く
兵庫茨城 校風興る
新田英二 情わる和
平の秋
希は東亜安定乃礎と
ならん

2代目・本間善一氏から
3代目・小岩井浄氏へ学長
を引き継いだ55(昭和30)
年11月に、本社の前身(二
タイム)社長の杉田有孝子
が漢詩の掛け軸を本間に
贈った。その掛け軸は、現
在は愛知大学が保管してい
るが、本間氏は生前、研究室
に飾り添えたという。本間
杉田の友情の深さを物語る
エピソードになっている。
写真、パネル展(副成
期の歴史)から歴代学長
教授、東亜同文書院大卒
豊橋市商致のエピソード、

愛大が写真、パネル展

同大学と地域のかかわり
など40数パネルによる。20
年裁判となった愛大事件
(52年)や山岳部員1人が命
を落とした薬師岳遭難事故
(63年)のコーナーも設けら
れ、当時の大学当局の真摯
(し)な対応がうかがい知れ
る。
13日から豊橋校と車道
校舎の2会場で写真パネル
展がスタートした。1点1点
をゆっくりとめくりながら
先人の業績、苦勞、学生に
対する愛情をみしめた。
担当実行委員は次の皆さん
責任者▽慈智寺東亜同文
書院大学記念センター客員
研究員
スタッフ▽堀真氏▽山
口恵里子さん▽武井義和氏
▽田原一郎氏▽中西千香さ
ん▽水谷まゆかさん



初代学長の林毅陸氏(昭和初期)



2代、4代目学長の本間善一氏(右)と3代学長の小岩井浄氏



キャンパス整備を視察する本間氏



杉田有孝子の掛け軸を手にする実行委員の皆さん

歴史刻む「その時」40数パネル



愛大事件で警察の「不法侵入」に抗議する学生デモ

◎ 広報パンフレット

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター主催

東亜同文書院と我が生涯の100年

講師 安澤隆雄氏 (東亜同文書院25期生)

1901年(明治34)中国の上海に開校した東亜同文書院は、のちに大学へ昇格するほど発展したが、戦後による閉校まで約五千人の卒業生を輩出した。卒業生の多くは戦後の日本経済を自分自身で支え、東洋は「100年の発展期を遂げた」と称せられた。

安澤氏は、一五三回生に上り立った東洋の戦後である。東洋の書院と異なり、異文化の中心と位置を認め、これらを通じて多文化理解の「土壌」を創出した教育者である。その生涯を振り返ると、その後の我が国はほとんど100年経たぬまでの人生について対談した。

現代史の真っ只中で
学んだ先達の体験記

プログラム

13:20～13:50
東亜同文書院大学記念センター
展示室説明会*

14:00～16:00
講演会

16:00～17:00
懇親会 (愛知大学豊橋校舎 精風館(ユニエール))
※12時前には、愛知大学豊橋校舎記念センター一階の展示室も公開いたしますので、ご来場の際は是非お立ち寄りください。

◆日時＝2006年7月22日(土)14時～ ◆場所＝愛知大学豊橋校舎 本館5階第3・4会議室

※展示室のみ不要 ※都合あり ◆愛知大学東亜同文書院大学記念センター 〒441-0522 豊橋市豊橋1-1 (豊橋市立東亜同文書院大学記念センター)
TEL: 0532-47-4129(会) FAX: 0532-47-4196(保)

豊橋市制100周年記念イベント


「近代豊橋の歴史を彩る人たち」

このうちの一人として、旧制愛知大学を創立した名誉学長 故本間喜一先生が選出されました。

日時 2006年9/8(金)～29(金)
場所 愛知大学記念会館ガーデンサロン

同時開催 本間喜一と愛知大学創成期 写真・パネル展スタート!

愛知大学では協賛イベントとして、本間先生の様々な側面にスポットを当てた写真・パネル展を開催します。当時のエピソードを交えた書簡・写真をご覧になれば、本間先生のユーモアたっぷりの人柄と、教育者としての愛情、そして愛知大学建学の精神を知ることができます。



主催：愛知大学東亜同文書院大学記念センター 共催：とよはし100実行委員会

創立60周年記念写真・パネル展

愛知大学創成期の群像

地域と共に60年

愛知大学の創立の周年を記念して、その創成期の主な歩みを紹介する写真・パネル展を、豊橋・東海・名古屋の各キャンパスで開催します。

豊橋 11.13(土)～11.22(日) 10:00～16:00
*愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室

11.27(土)～12.16(日) 10:00～16:00
ガーデンサロンGarden

東海 11.13(土)～11.22(日) 10:00～16:00
*愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室

11.27(土)～12.16(日) 10:00～16:00
*愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室

名古屋 11.27(土)～12.16(日) 10:00～16:00
*愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室

入場無料

お問い合わせ 愛知大学東亜同文書院大学記念センター
TEL: 0532-47-4139

※愛知大学東亜同文書院大学記念センターオープン・リサーチ・センター
※愛知大学豊橋校舎・愛知大学豊橋校舎

愛知大学 AICHI UNIVERSITY

愛知大学東亜同文書院大学記念センター講演会

「満洲の青少年像」

[言語：日本語]

日時 2006年11月25日(土) 14:00～16:00
会場 愛知大学豊橋校舎 記念会館 3階 小講堂
※豊橋鉄道通英駅「愛知大学前駅」下車すぐ

講師 Ronald Suleski 博士
【ハーバード大学フェアバンク東アジア研究所所長】

昭和15年(1934年)1月に招致された満洲国青少年教育委員には満洲国前期の植民地、国内農村の不安定な人口問題を解決する目的で日本の農村から多くの少年たちが送られていった。彼らは16～19歳、身体健康、意志強固、農事に永住の決心がある者で、少年たちは農務の新しい経験の下、原野に住宅を建設し、水田や畑を拓き、作物の栽培と畜産の飼育をしていたが、最終を導いた結果で、労働や飢寒や疾病のため、死に別れる者、病への下請け労働、反乱が起った。そして昭和14(1939年)5月、奉天省瀋陽県興山町の皇都特別保護所内で数千人の最大の不祥事件である皇国事件が発生。3名の死亡者と10数名の重軽傷者を生じさせた。しかし、少年たちは犠牲を払うことで、有罪判決を受けた全員が釈放され、帰国の講演では、ロナルド・ジュレスキー博士によりこのように満洲に渡った青少年の姿が明らかになる。

プログラム

- 開会あいさつ 14:00～14:10
- 「満洲の青少年像」講演 14:10～15:30
- 質疑応答 15:30～16:00
- 懇親会「ユニエール」にて 16:00～17:00

入場無料【懇親会無料】どなたでも自由にご参加下さい。

事前申込不要

愛知大学東亜同文書院大学記念センター／オープン・リサーチ・センター
7441-0522 愛知大学豊橋校舎 豊橋1-1 TEL: 0532-47-4139 FAX: 0532-47-4196
愛知大学豊橋校舎 豊橋1-1 TEL: 0532-47-4579 FAX: 0532-47-4129
E-mail: tshien@ml.aichi-u.ac.jp



公開研究会開催のお知らせ

愛知大学の創立者の一人
— その学問と思想 —

テーマ: 小岩井 浄と人民戦線

講師: 藤城 和美 (愛知大学名誉教授)

日時: 2006年12月2日(土) 午後13:30~15:30
場所: 愛知大学豊橋校舎 本館5階 第3・4会議室
(豊橋鉄道南美濃線 愛知大学前駅下車すぐ)



事前申込不要 ○入場無料 ご自由にご参加下さい。

注 意

愛知大学東亜同文書院大学記念センター/オープン・リサーチ・センター
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
TEL (0532) 47-4139 FAX (0532) 47-4196

お問い合わせ

愛知大学豊橋研究支援課
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1
TEL (0532) 47-4579 FAX (0532) 47-4129 E-mail: tshien@ml.aichi-u.ac.jp

公開研究会開催のお知らせ

テーマ 世界大学史と愛知大学
講師 酒井吉栄 (法学博士・愛知大学名誉教授)
日時 2007年3月17日(土) 13:30~15:30
会場 愛知大学豊橋校舎 研究館1階 第1・2会議室
(豊橋鉄道南美濃線 愛知大学前駅下車すぐ)



Universität zu Berlin



Aichi University



ユヴァンコフ



スライキナ



ワグネル



藤城



酒井



小岩井

入場無料 どなたでも自由にご参加下さい。

事前申込不要

お問い合わせ

愛知大学東亜同文書院大学記念センター/オープン・リサーチ・センター
〒441-8522 愛知県豊橋市町畑町1-1 TEL (0532) 47-4139 FAX (0532) 47-4196

第8回図書館総合展特別企画



愛知大学創立60周年記念

知を愛する者が集う

愛知大学の展示会

—のこされた東亜同文書院大学の資料を追う—



会期

2006年

11月20日(月) ▶ 22日(水)

10:00~18:00

会場 パシフィコ横浜 展示ホールC

展示コーナー

「東亜同文書院大学」から「愛知大学」へ
東亜同文書院大学の歴史と、それが愛知大学へ引き継がれた
資料及びそれを支えた多岐な人物や行状を紹介します。

種々変えた書院の自由貞政・純三郎兄弟
編纂と共に、近代の学問の中心となる役割を担った日本人の
足跡の刻まれた資料を示す関連資料を紹介します。今日の
日本関係の上からも、価値のあるものと思えます。

このたび、「愛知大学東亜同文書院大学記念センターの情報公開と東亜同文書院
をめぐる総合的研究の推進プロジェクト」が、文部科学省「私立大学学術研究高度
化推進事業 平成18年度オープン・リサーチ・センター整備事業」に選定されまし
た。これによって東亜同文書院に関する多面的な研究をすすめる、その成果を公表し
ていくとともに資料展示、シンポジウム、講演会、研究会などを催し、学術的研究
や理解に寄与したいと考えます。

◎ 東亜同文書院大学記念センター通信

1997年9月 日発行

東亜同文書院大学記念センター通信 No.1

愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員会 発行責任者 今泉貞太郎
TEL0532-47-4111 (F) (内線1818) FAX 0532-47-4132

委員各位

残暑なおきびしき折柄でございますが、みなさまにはお疲れなくお元氣にお過ごしのことと存じます。

さて、すでにご承知のことと存じますが、旧本館の修復工事の年内完了にともない、本センターも評議会決定により旧本館西側にいよいよ展示ルーム、オリエンテールディングルーム、事務室、整理室などが整備される運びとなりました。

本センター展示室の開設は関係者のもとより、広く社会一般からも大きな期待が寄せられており、できるだけ充実したものを提供することが要請されております。

つきましては、このことに関して各位よりご意見をお寄せいただき、さらにできれば宮崎兄弟記念館、孫文記念館、近代文学館、東洋大学井上円了記念館などの訪問視察ならびに専門業者による展示の基本コンセプトの聞き取りなどを含め早急に具体的な計画の検討をおこないたいと考えます。

ご参考までに下記について、若干の資料を同封いたしましたので、別紙回答をお寄せいただきますようお願い申し上げます。(回答締切日：10月末日)

1. 旧 本 館 略 図
1. 今後のスケジュール
1. 現 有 コ レ ク シ ョ ン

以上

1998年3月20日発行

東亜同文書院大学記念センター通信 No.2

愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員会 発行責任者 今泉貞太郎
TEL0532-47-4111 (F) (内線1818) FAX0532-47-4132

各位

すでにご承知のとおり、旧本館は愛知大学記念館と正式に命名され、この1階にわが愛知大学東亜同文書院大学記念センター(略称 同文書院センター)は5室、すなわち事務室、第1展示室兼オリエンテールディングルーム・センターライブラリー、第2・第3展示室(孫文・辛亥革命と山田良政・純三郎関係資料展示室)、第4展示室(東亜同文書院大学関係資料)が配分され、待望の常設展示が可能となりました。

昨年来、他大学の記念館など数箇所施設を見学し、調査をおこない、その後、検討をすすめてきました。その結果をふまえ、来年度所報事業としての予算要求をしてみましたところ、1,500万(展示関係)と100万(照明関係)の内示がありました。この範囲内で「スタンバイ」社提案の基本プランを採用し、ただ今製作に入っております。他大学等の施設とは桁違いの金額で一切を賄うことになりましたので、結果的に希望や意見が十分反映されているとは言えない展示となるおそれもあります。

ともかく現在5月9日のオープンにむけて大学院中国研究院生を中心に準備をすすめております。4月中旬にはおおよその形ができる予定ですので、現場においでの方にはご意見、ご感想をお聞かせください。

以上

1998年4月14日発行

東亜同文書院大学記念センター通信 No.3

愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員会 発行責任者 今泉貞太郎
TEL0532-47-4111 (F) (内線1818) FAX0532-47-4132

各位

5月9日展示オープンにむけて、スタンバイ社に届け負わせて鋭意進行中でありま。ほぼ形を成してききましたので、運営委員各位にご覧いただきご意見をうかがいたく、下記により内覧会を実施いたしますので、ご参加くださるようご連絡いたします。

記

東亜同文書院大学記念センター運営委員会会議通知

日 時：1998年5月1日(金曜日)午後3時～4時

場 所：大学記念館(旧本館)内 同文書院記念センター展示室

以上

東亜同文書院大学記念センター通信 No. 4

発行責任者 愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員会
TEL0532-47-4111 (F) (内線 1815) FAX0532-47-4132

最もお見舞い申し上げます。

↑ おかげさまで現在、106名(うち1法人)の方が賛助会員になってくださいました。お礼申し上げます。

【氏名一覧(受付順)】

(法人) 眞山会、(個人) 栗原博隆、中村 義、平井 佑、坂下雅章、鈴木 信、坪上 正員、高宮隆、釜井卓三、毛井正勝、吉川 横、小嶋昌泰、高井和伸、藤田光保、藤田照男、村岡正三、池部雅文、酒井重雄、山本照方、山浦克己、内田栄一、小松正弘、竹田定雄、中島寛司、新美徹三、田原勇典、伊藤道夫、日比正司、越前 尊、佐野吉久、社本百子、長谷川牧直、木田彌三郎、野澤四郎、安武 肇、山崎秀一、成田昭男、前島省吾、小本曾治、市川 秀、寺沢 衛、磯村富士男、今村俊一、石原早苗、前田清蔵、坂本一夫、青山 實(個人経身)鈴木英治、小林進之輔、藤浦幸夫、監水達生、松丸俊雄、渡川鶴彦、佐藤 博谷、光隆、吉田良雄、今泉茂太郎、吉村基泰、水口 俊、河合 浩、三宅道雄、賀来操子、倉形 敏、奥村安夫、藤本和雄、伊藤毅、高遠三郎、高瀬恒一、鈴木茂徳、藤本高明、尾林達夫、尾崎茂宗、戸田七支、平井 勉、小川 信、下村行正、吉田 忠、鈴木公男、松尾 翠、武富健治、石田 孝、石田榮子、山下輝夫、阿部 弘、佐藤元一、林 徳太郎、大野豊久、長島一宗、梅田 寛、牧野由朗、木田 実、水野次朗、清水一夫、西田 稔、木村隆吉、奥田隆彦、佐久間哲夫、大島秀文(9月1日までの受付分)

↑ 5月9日の展示室オープン以来、9月1日までの来場者状況は次のとおりです。

見学者総数 235名です。うち、同文書院関係者 15名、愛知大学関係者 108名、団体・予約見学者、愛大同意意登録支部の50名、豊橋市幹部職員4名、豊橋市教育委員会関係者4名、ドイツから故 張潔潔女士(書院中国語教員関係者)の二女、歐陽效台さんと夫君他4名、豊橋市南都中学校生徒 40人、東邦学園事務局長 竹田普隆氏 他2名、(株)セノン 会長 堀 深氏(34期) 他3名、研究者の訪問、東京工業大学 梶雄範氏、神奈川大学 大里浩秋氏 他1名、横浜国立大学 飯島涉氏 他1名、中国社会科学院近代史研究所 唐宝林氏、中央研究院近代史研究所 張玉法氏 他2名、新米高級商工職業学校 渡朝昌氏 他1名、韓国中央大学校教授 黄麗圭氏、任榮哲氏 他学生2名。

5

↑ センター取材

名古屋国際センター、毎日広告社、東愛知新聞社、読売新聞社、20世紀企画取材室、日本経済新聞社、NHK岐阜放送局等7社。

↑ 書院関係者からの各種ご連絡5件。

↑ 寄託物品(書籍)、阿部弘様(書院同窓)ダンボール1箱分、森下博様より60冊、欧陽效光様(書院中国語教員関係者)ダンボール20箱分、二川薫様(書院同窓)より1冊、渡辺長雄様より4冊、山田喜代市様(書院同窓)1冊、宮崎光子様(書院同窓)4冊、星野五百子様(書院同窓)1冊、長島一夫様(書院同窓)2冊です。整理された分から配架しております。

↑ 8月6日、各展示室に除湿機が入りました。事務室にもエアコンが入りました。物も人もさっぱり息づけます。

↑ 6月29日の『光明日報』に中国社会科学院近代史研究所の唐宝林氏(愛知大学短期受入研修教員)の書かれた「日本の愛知大学、孫中山の革命活動に関する資料を公開」という記事が載り、本センターが紹介されました。



一九九八年五月一日、愛知大学東亜同文書院に孫中山の革命活動に関する資料を公開した。孫中山の革命活動に関する資料を公開した。孫中山の革命活動に関する資料を公開した。

↑ 名古屋国際センターが毎月一回発行している『月刊ニックニュース』8月号に、「日中のかけ橋になろうとした人々」と題し、展示室が2ページにわたり写真入りで紹介されました。

東亜同文書院大学記念センター通信 No. 5

発行責任者 愛知大学東亜同文書院大学記念センター運営委員会
TEL0532-47-4111 (F) (内線 1815) FAX0532-47-4132

↑ おかげさまで現在、121名(うち1法人)の方が賛助会員になってくださいました。お礼申し上げます。9月1日以降新しく加入されました方は以下のとおりです。(1998年11月30日現在)

氏名一覧(受付順・敬称略)

(個人) 森 正色、久保田文治、野田孜郎、安垣 隆、高橋五郎、小泉清一(個人経身)内田英一、藤谷三郎、児島純吉、小田啓二、菊野幸夫、小澤潤一郎、倉田俊介、山口左郎、高階 昇

↑ 9月1日以降、見学者総数は180名です。うち、同文書院関係者3名、愛知大学関係者79名(1998年11月30日現在)、団体・予約見学者は愛大同意意登録支部20名、早友会38名、山下春雄、豊橋市立南都中学校生徒30名以上の方々。研究者の訪問は府展期(東京大学大学院)、劉碧蓉(国立岡記念館)、リンネイ・リー、リニケン・リー(愛知文教大学)、方克立 他2名(中国社会科学院)、橋本梨(南開大学)、洪復瑛(国立台湾師範大学)以上の方々。

↑ センター取材(10月、11月分) 同窓会報、名古屋新聞、東新住建(建物について)、入試広報課。

↑ 書院関係者からの各種ご連絡3件 お世話になった同文書院の先生方の書かれた著書、その他資料等についての問合せがありました。

↑ 寄託物品(書籍) 阿部弘様(書院同窓)資料コピー2点、小田啓二様(書院同窓)ダンボール14箱、長島一夫様(書院同窓)1冊、木村隆吉様(書院同窓)2冊、高瀬恒一様(書院同窓)1冊、奥田勝彦様(書院同窓者の家属)1冊、劉碧蓉様(研究書)2冊。学部生数人に手伝ってもらい整理中です。整理後、必要に応じて配架しています。

2

↑ 昨年10月、天津をリハビリ鍼灸治療のため訪れていた加治屋俊郎(書院38期)ご夫妻が南開大学を訪問しました。愛知大学現代中国学部の現地プログラムで南開大留学中の愛大生、大月美和さんと会い、彼女から愛大で学ぶ誇り、同文書院の歴史などを熱く語られました。加治屋さんは心の支え、人生のより所としていた母校の名前を孫娘のような年頃の学生から聞き、感動したそうです。皆様も天津へ行く機会があったら、ぜひ南開愛大会館へお立ち寄り下さい。

↑ 本センターを5月訪問された唐宝林先生が帰国後、「日本山田档案中関于宋慶齡の資料-兼宋慶齡兩張相片的拍攝時間と地点」という一文を同結報(98.9.17)に投稿されました。要旨は展示資料中の宋慶齡の写真的背に書かれた山田純三郎の文から類推して、「宋慶齡選集」等ていわれているこの写真的撮影日時と場所は誤りであるとの見解を提示されています。

↑ 中国社会科学院近代史研究所から客員研究員として来学中(12月より来年2月まで)の王奇生先生から档案与史学(98.5)の阿建昌「上海東亜同文書院(大学)档案的發現及價值」をいただきました。内容はまことに興味深く、以下順を追ってご紹介いたします。まず同文書院に関する中国側の現在までの研究の紹介があります。即ち1936年上海生活書店出版 王古魯「最近日人研究中国学術之一斑」中の一部、1964年上海文史資料選輯第17輯、吉宜康「關於東亜同文書院」、1982年 台湾中央研究院近代史研究所出版「近代日本在華文化及社会事業之研究」中の一節、1989年 复旦大学出版「上海詞典」中の項目、1990年 蔡茂堂 徐匯史学資料選輯第5輯「關於東亜同文書院の一鱗半爪」、1995年 藤智良 档案与史学第5期「上海東亜同文書院述論」、1997年 單冠初 档案与史学「試論東亜同文書院的政治特点-兼与西方教会大学比較」があげられています。(以下次号)

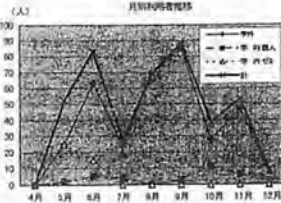
↑ 岩波 広辞苑(5版)で「東亜」の項に「東亜同文書院」があらたに入りました(5行)。一愛知大学とあり。「愛知」の項中の「愛知大学」にも東亜同文書院の名がでています。すでに三省堂の大辞林(2版)でも「東亜」の項に「東亜同文会」(3行)、「東亜同文書院」(7行)があり、また講談社 日本語大辞典(初版)には「東亜同文会」(6行)があります。もっともこの説明には事実誤認があります。

愛大同文書院記念センター通信 No. 6

発行責任者 愛大東洋学同文書院記念センター運営委員会 TEL:0532-47-4111 (内線 1815) FAX:0532-47-4132

↑ 展示室利用状況 (1998.9~1998.12)

Table with columns: 月, 学号, 案内個人, 団体数, 計(案内個人). Rows for months from April to December.



↑ さる1月19日午後、愛大東洋学2期生の「現地教学」報告会が名古屋校舎において開催されました。南開大学で昨年9月から12月まで4ヶ月間学習した成果が学生の中国語による司会のもとに進められ、留学中の疑問や書籍制作の展示、ビデオによる双劇の立ち廻り、中国武術の演武など拍手喝采を受けました。

い合い、とこころを暖めましょう。中国には喧嘩をした後、本当の友人になれるという諺があります。と述べ、「皆さん、これからいろいろな中国人に会うことと思いますが、とんとん喧嘩をして本当の友人になって下さい。」と締めくくりました。

↑ センター通信 No.5 で紹介した中国社会科学院近代史研究所 王奇生先生は、「東洋同文書院学生調査旅行の基礎的研究」のテーマで昨年12月来学、谷口教授の指導のもと本センターの資料、本学図書館蔵書など調査をおこないました。

↑ 原建昌「上海東洋同文書院(大学) 檔案的発見と価値」(その2) 1982年、北京図書館柏林分館において同文書院の資料・学生の調査報告書と目録を見つけた、それらには国立南京図書館の緑の蔵書印が押してある。

愛大同文書院記念センター通信 No. 7

発行責任者 愛大東洋学同文書院記念センター運営委員会 TEL:0532-47-4111 (内線 1815) FAX:0532-47-4132

↑ おかげさまで現在、137名(うち1法人)の方が賛助会員になってくださいました。お礼を申し上げます。昨年12月1日以降、新規加入された方は以下のとおりです。(3月31日現在) 氏名一覧(敬称略、敬称略)

- (個人) 小林光雄、山上高行、山田晋代市、伊藤吉吉、北村清八郎、今井幹郎、栗谷啓一、中野謙雄、小高正浩 (個人賛助) 北島尚之、早川隆、奥田邦彦、山角隆敏、小林哲郎、佐藤英典、長谷川伸一

賛助会員制度も発足して5月で1年になります。個人会員の方には期間終了のご案内とご継続のお願いを、期間終了の1ヵ月前にお送りしています。ご協力の程、よろしくお願ひ申し上げます。

↑ 宗方小太郎氏の挿絵 他数点 受贈 佐々木直義氏より親友会を通じ、宗方小太郎氏の挿絵他数点の高額がありました。2月26日、親友会事務局長 賀来彌子氏、藤川和義氏、佐藤英典氏、中野政義氏、大原一貞氏、松尾謙也氏がわざわざ来学され、前記の品を学長に手渡されました。その後、センター展示を參觀されました。

↑ 受贈物品 (書籍等) 本田三三氏(書院28期)9冊、親友会様1冊・ビデオ「瀟湘遊記」1本 尾島剛吉氏(書院37期)1冊

↑ センター取材 1/19 ブラネット、1/27・28 名古屋テレビ(海老名敏宏プロデューサー)

↑ 廖承志氏の書 センターへ寄贈される 『中日両国人民的 親善友誼是 保衛世界和平的 重要力量』 小林一夫先生記念 廖承志 1965年9月3日

↑ 夫々に異なっていたと思います。翌年には「文化大革命」と激動期に入り、私が再度北京に駐在したのは1974年から77年の秋まででした。(後略) ということであります。

↑ 東洋同文書院創立百周年記念ビデオ「瀟湘遊記」 これは高橋恒一氏(書院41期)がつくられた映像による書院と書院生の貴重な記録の最大成であり、書院を紹介する格好の資料でもある。

↑ 台湾作家訪日団の来学 3月24日、台湾輔仁大学外語学院院长であり作家の林水福氏を代表とする台湾の11名の作家、詩人、劇作家が来学され、センター展示室などを參觀された。

↑ 原建昌「上海東洋同文書院(大学) 檔案的発見と価値」(その3) 北京図書館柏林分館に所蔵されている資料の中で原建昌氏が確認している調査報告書は、次のとおり(1936年以降分)。

1936年の調査報告書は第2次上海事変により焼失したものと見られ、1937年のものは鈴木操郎教授による研究旅行日記、1938年のものは小竹文夫教授による調査旅行報告書、及び南洋調査隊の旅行日記である。これらの他に宮下忠雄教授の研究旅行日記(1939年)、藤野正平教授の研究旅行日記(1939年)、斎伯守教授の調査旅行日記(1940年)、飛石初次教授の臨時研究旅行日記(1941年)、原一郎教授の南京・蘇州研究旅行日記(1941年)がある。(以下次号)

愛大同文書院記念センター通信 No. 8

発行責任者 愛知大学東洋同文書院記念センター運営委員会
TEL053-47-4111 (内線1818) FAX053-47-4132

↑ さきに会員の方にご収録のお便りをしてきましたが、おかげさまで多数の方々のご協力いただきました。お礼申し上げます。4月1日から新規加入、ならびに編成された方は以下のとおりです。(7月16日現在)

氏名一覧 (受付順・敬称略)

- (新規加入) (個人) 山口栄、榊原聖之 (個人) 安田直、森川亮、内川大海
(法人会員登録) (財) 鹿山会
(個人会員登録) 坂下登章、鈴木信、栗原博樹、池部雅文、藤田寛男、小松正弘、越知孝、吉川康、毛井正樹、中島宣司、藤田光保、田原勇典、佐野吉久、辻本百合子 (個人一人) 終身、伊藤道夫、中村健、西井雄雄、村岡正三、山本陽方、小木哲治夫、山崎秀一、成田昭夫 (個人一人) 終身、野野西郎、前島春彦、安武孝、内田栄一、木田剛三郎、笠井幸三、長谷川敬哉。

↑ ~ 夢承志の書に寄せて ~ 夢承志氏の没後についてはセンター通信 No. 7 でご紹介いたしました。寄題者の小林一夫氏よりお手紙をいただきました。

(前略) 略後、日中記者交換は昭和39 (1964) 年4月、訪中した松村謙三自民党顧問と夢承志中日友好協会会長との間で会談メモが交換され、実現の運びとなりました。これを受けて日本新聞協会が調査の結果、常駐特派員9人を選考し、その年の9月29日北京入りとなりました。丁度中国が建国16周年の国慶節を控えた記念すべき時期と重なり、NHKからは小生が9月27日午後、羽田発の日航機で香港経由で赴任しました。

当時、西報からは英国のロイター、フランスのAFP両通信社が各一人の特派員を常駐させている時代でした。しかも特派員の活動は規制が厳しく、取材範囲は北京から25マイル以内と定められ、それ以外は許可制の条件付きでした。そんな中、夢承志会長は毎週一回、日本人記者の要請にこたえて、一時間ほどの朝食会で情報交換を含む懇話にこころよく応じてくれ、私共の中国理解に有益な情報を提供してくれました。一年後任期を終え交代する際、記念にと贈ったのが今回西報の書というわけです。

帰国の翌年、1966年5月にはあの文革発動で中国大乱の幕開けとなりましたし、短い期間だったとはいえ、私にとって貴重な中国常駐だったと思い返しております。二度目の北京は1974年~1977年にかけて3年半でしたが、1976年は周恩來、毛沢東の死去と四人組放政を問のあたりし、記者有利につながる中国報道でありました。

小林一夫

1999年4月

↑ 趙建民先生による研究報告

専門教育大学の客員教員として来日されていた趙建民先生が0/14~0/16日米来され、センターの存続、同文書院関係の資料の閲覧などされました。

彼かの来日でしたので、学内関係者も「東亞同文書院をめぐって」というテーマで座談会をもちました。

趙建民先生は、現在上海の復旦大学歴史学教授、長期間、日本史、中日関係史の研究と教育に専事し(次の同文書院記念館にレジュメ掲載予定)、「日本通史」をはじめ著書、論文も数多く発表しています。

↑ 劉永超文庫 (愛知大学大学院文学研究科・博士後期課程) の論文に書院委員会研究員高橋永超文庫の「中国新疆タクラマカン砂漠地域における貿易・環境とオアシス経済」という博士号論文が今年度の東亞同文書院記念館研究奨励賞に決まりました。

↑ 名古屋TV 北京国書館取材

北京国書館に所蔵されている旧東亞同文書院大岡四郎書院資料についてこのほど現代中国学術教授劉永超氏及び本センターで研究調査された中国近代史研究所王育生氏が同館の貴重書文庫提供センター長の胡伏特女士と連絡された結果、8月中旬に北京を訪問する名古屋TV「青春の上海」取材班(若老名敏孝チーフディレクター)がこれを撮影することが決まりました。結果が大いに期待されます。

↑ 関連書「上海東亞同文書院(大学) 檔案の発見と價值」(その4)

同類のものに太田英一、坂本一郎、山崎伊太郎、五味一、戸部西郎、若江博行、山田厚、西岡高志、血直ら著の旅行記がある。

その他の資料として、学生調査大旅行指導要綱(12~15年度旅行コース表と予定表、1941年度東亞同文書院大学一覽、東亞同文書院年報(昭和2~12年度)支那研究部研究旅行、同年報、留友会聯合会年報1937、38、41、42年度分がある。(以下次号)

↑ 利用状況報告

6月30日現在				(予約登録)	
月	学	計	(団体)	計	(予約)
1月	13	3	0	(1)	16(0)
2月	47	0	0	(3)	47(1)
3月	25	3	0	(3)	28(1)
4月	90	3	104	(3)	197(0)
5月	34	6	0	(2)	42(5)
6月	33	7	25	(3)	65(2)
計	197	18	129	(8)	304(7)

※合計は本年度のみ

愛大同文書院記念センター通信 No. 9

発行責任者 愛知大学東洋同文書院記念センター運営委員会
TEL053-47-4111 (内線1818) FAX053-47-4132

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りいたします。

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご提供いただきました。お礼申し上げます。7月15日から新規加入、ならびに編成された方は以下のとおりです。(1999年12月14日現在)

氏名一覧 (受付順・敬称略)

- (新規加入) (個人) 中川四郎 (個人) 森田康
(個人会員登録) 高井和伸、竹田建雄、前田清隆、坂本一夫、青山貴、今村一、野田政博 (個人一人) 終身、藤正正、安藤謙、高橋五郎、小泉潔一 (個人一人) 終身、山田憲行、山上高行、北村清八郎、小林亮彦

↑ 書院関係者からの問い合わせ…4件
卒業生より成績簿の件、遺族の方より同文書院の当時の所在地、祖父の書かれた旅行記についてなどの問い合わせがあります。可能な限り調べ、お返事します。

↑ 寄贈物品

岡部弘隆 (昭和三十九) 書籍20冊、青木光利隆 書籍29冊、内田英一 資料3巻 ありがとうございます。

↑ センター取材…仙台放送、朝日新聞社週刊20世紀、名古屋テレビ

週刊20世紀1999年11/7号にセンター展示品の写真が掲載されています。
名古屋テレビが約1年かけて愛知大学現代中国学部の学生と東亞同文書院O.B. 記念センターなどを取材し、現地ロケを含め制作したドキュメンタリー番組「青春の中国」が以下の予定で放映されます。

地元名古屋エリア (愛知・岐阜・三重)

タイトル 「名古屋テレビ特撮・青春の中国~熱い日中友好の駆け引き~」(1時間番組)
放送日時 7月28日(土)午後1時から

その他名古屋テレビを含めたテレビ局別各局

タイトル 「テレメンタリー・青春の中国」(30分番組)

放送日	放送時間	放送局
3月11日(土)	25時10分	朝日放送 (大阪)
3月12日(日)	06時30分	九州朝日放送・秋田朝日放送・熊本朝日放送・琉球朝日放送
3月12日(日)	24時25分	北海道テレビ・東日本放送 (宮城)・山形テレビ 新潟テレビ21・北陸朝日放送 (石川)

3月12日(日)	24時30分	広島ホームテレビ・鹿児島放送
3月12日(日)	24時55分	静岡朝日テレビ・長野朝日放送・瀬戸内海放送
3月12日(日)	25時00分	名古屋テレビ・大分朝日放送
3月18日(月)	11時00分	福岡放送
3月18日(月)	24時00分	秋田朝日放送
3月18日(月)	09時55分	テレビ朝日・愛媛朝日放送
3月17日(金)	09時55分	山口朝日放送・長崎文化放送
3月18日(土)	06時00分	名古屋テレビ (再放送)
3月18日(土)	07時00分	岩手朝日放送

※予定は番組の都合上変更になることもあり、番組編などで確認してください。

↑ センター利用状況

7月28日				計(予約)	
月	学	計	(団体)	計	(予約)
4月	90	3	104	(3)	197(0)
5月	34	6	0	(2)	42(5)
6月	33	7	25	(3)	65(2)
7月	28	6	0	(10)	31(0)
8月	202	2	0	(0)	204(0)
9月	81	1	0	(1)	82(1)
10月	75	1	0	(4)	76(4)
11月	66	4	0	(4)	59(0)
12月	21	0	0	(2)	21(14)
計	817	31	129	(29)	773(28)

↑ 関連書「上海東亞同文書院(大学) 檔案の発見と價值」(その5)
書院の教員学生の旅行調査報告と日記は日本軍の占領以前と以後で線が引くことができる。占領以前は自分たちの調査したい項目を裏にして現地を記入する方式でございながらも、日本占領勢力とくに興業課、領事館、日本軍、憲兵隊、特務機関などの援助や資料の提供をうけ、地方の偽備政権の援助をうけたものであり、その調査項目は多く日本の侵略、日本の中国侵略機関の要求に応じたものとなっている。

北京図書館所蔵の千冊にのぼる資料中、切境地区一内閣書、台同、海關局、東三省、警察、債門などの資料は3分の1程度あり、まことに貴重なものである。これらは中国近代史研究上はもちろん、蒙古学、中日関係史、抗日戦争史、中国教育史、中国旅行史など関連研究にも貴重なものでもある。

同文書院資料の発掘と利用は、中国・東アジア研究上の資料として重要であるが、さらに重要な点は同文書院と学生が報告を書くために当時の史料を大量に使用し保存した点である。その中には日本の中国侵略機関の秘蔵資料が戦後の調査過程の中で独自に発見されたものもある。上海に関する史料が最も多いが、その他、上述の地域のもの以外にも在露日本領事館及び日本居留民、露中関係機関の所蔵、在露ユダヤ人とロシア人、ヨーロッパの在露勢力、金満門、宗親、刊行物、教育、国債などのものである。(2)

関連書氏の原稿約1600字に及ぶ論文の概く一部を紹介いたしました。原氏の多年にわたる努力により、戦戦時に接収された東亞同文書院大学所蔵の資料一冊に調査旅行するもの約一千点がここに存在証明されたことはまことに画期的であります。本センターでは原氏をお招きし、直接お話をうかがうことを計画いたしております。

2000年10月1日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 10

発行責任者 愛知大学東洋同文書院記念センター運営委員会 TEL:052-47-4111 (F) (内線1818) FAX:052-47-4132

秋の心地よい季節になりました。

↑ 今回も多くの賛助会員の方々にご協賛いただきました。お礼申し上げます。昨年12月24日から新規加入、ならびに離脱されました方は以下のとおりです。(2000年9月30日現在)

氏名一覧(受付順・敬称略)

(法人会員継続) 霞山会

(個人会員継続) 伊賀太吉 石原早苗 藤村富士男 森谷敬一 中野政隆 小高直治 山口栄 坂下雅幸 (個人一人継続) 榎原真之 (個人一人継続) 鈴木信 (個人一人継続) 藤原博爾 佐野吉久 中島真司 野井重雄 村岡正三 高井和伸 吉川謙 小松正弘 藤田直男 田原勲典 越知孝 藤田光保 内田栄一 毛井正勝 池部雄文 (個人一人継続) 伊藤道夫 山本昭夫 小本健治夫 山崎勇一 前島善吾 安武孝 本田三郎三 藤井卓三 長谷川俊風 竹田定雄 前田清隆 坂本一夫 今村俊一 藤正巳

↑ 書院関係者からの問い合わせ…4件
書院を卒業された方が活躍された会社、大学等から、社史や大学史等を作るための問い合わせが2件ありました。その他、上海でお父様がお世話になった書院の方を捜して訪ねて来られた方がいます。

↑ 寄託物品
山縣英二様 印筒22冊、山田晋代市様(書院31冊) アルバム1冊、

↑ センター取材
東西刊20世紀2000年2/20号にセンター展示品の写真が名前入りで載っています。
京中日新聞、2000年8/7、8/8、8/9、8/11、8/13に東洋同文書院の記事が、6回連続で載りました。記事の疑問一紙氏はセンターの取材に来られました。

↑ 記念冊7号の礼状
賛助会員全員、その他関係者の方々に記念冊7号を送りました。また、ビデオ「君等の中国」もご協力いただいた方々にお送りしました。鮎川幸子様・上坂冬子様・藤田卓雄様・山口豊子様・金丸一夫様よりお礼状をいただき、近況もお知らせくださいました。

↑ 研究会例会

かねてから同文書院記念センター通信、同文書院記念冊7号等で論文を紹介して来ましたが、藤田先生を招聘し、研究会例会を開いていただきました。
研先生は2000年7月21日(金)に来日され、22日(土)愛知大学豊田校舎本館5F第2会議室において13:00より約1時間、北京国家図書館所蔵の東洋同文書院図書・資料について報告され、その後質疑応答が活発に行われました。参加者は11名でした。報告された詳しい内容は次回発行される同文書院記念冊8号に掲載する予定です。
研先生は、26日(水)東京へ移動、27日(木)東京霞山会において、同様に研究会例会が行われました。31日(月)すべての日程を終え帰国されました。

↑ 寄員研究員

霞山会の特別講義を受け、夏且大学の佐藤隆先生が9月25日(月)来日されました。張先生は愛知大学で1年間東洋同文書院大学の研究をされる予定です。

↑ センター利用状況

Table with columns: 9月30日現在, 学外, 学内 (個人, ゼミ), (団体数), 計(うち外国人). Rows show monthly data from October to September, with a total row at the bottom.

Table with columns: <予約参加記録> (敬称略), Date, Name, Count. Lists reservation records for various events from May to July.

2001年10月31日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 11

発行責任者 愛知大学東洋同文書院記念センター運営委員会 TEL:052-47-4111 (F) (内線1818) FAX:052-47-4132

↑ 今回も多くの賛助会員の方々にご協賛いただきました。お礼申し上げます。2000年10月1日から新規加入、ならびに離脱されました方は以下のとおりです。(2001年10月31日現在)

氏名一覧(受付順・敬称略)

(法人会員継続) 霞山会

(個人会員継続) 2000年度分 石原早苗 野澤四郎 伊賀太吉 山上高行 山田晋代市 北村清八郎 小林元孝 中野政隆
2001年度分 小松正弘 (個人一人継続) 竹田定雄 高橋五郎 伊藤道夫 高井和伸 吉川謙 中島真司 野井重雄 村岡正三 (来年度分含む) 藤田直男 毛井正勝 越知孝 内田栄一 山口栄 小本健治夫 前島善吾 本田三郎三 山崎勇一 野澤四郎 安武孝 藤井卓三 坂本一夫 今村俊一 安位雄 藤正巳

(新規加入) 近田幸夫 (個人継続) 岡谷文次 (個人) 杉杉益夫 (個人) 成田ミドリ (個人)

↑ 書院関係者・研究者からの問い合わせ…8件
主な問合せ—Weekly Hong Kongに掲載の記事を書きたいという方から旅行記について、45期専門部の方が会報を作るため当時の成産会の有無、名簿と人数の照合、卒業生の消息、ご遺族の旅行記の有無、若くして転校された書院卒業生の遺族から同窓会の有無についての問合せなどがありました。

また、NHKラジオの「ラジオ深夜便(心の時代)」で川原真男氏による同文書院の紹介があった後は一般の方からも問合せがあります。主に同文書院についての書籍の紹介が求められます。

↑ 寄託物品
隈谷敬一様 書籍6冊、小林昌子様 書籍1冊、酒江会2冊、岡見忠孝様 書籍3冊、尾崎茂夫様 書籍8冊、吉川謙様 上海交通大記念品他2冊、香村幸子様 卒業証書・録音、藤田昌子様 本岡先生への奨励書、林英様 書籍1冊、江原一馬様 書籍1冊、山本定雄 書籍2冊、香取山紀子様 書籍3冊、阿部弘様 書籍・資料1冊
親友会より、親友会所属の帳、書籍、写真、資料等多数いただいております。たぐいまるく整理中です。

↑ センター取材
※WEEKLY HONG KONG No.102 2000年10/28
※NHKラジオ深夜便こころの時代 6/19 (大) 6/20 (水) 放送
※京中日新聞(3/14取材)、読売新聞(5/21取材) 朝日新聞(5/8取材)
※新聞記事(100周年関係) 中日新聞(5/23)(5/25)(5/8) 朝日新聞(7/7夕刊)
※Yomiuri Weekly(5/3)

↑ 東洋同文書院大学創立百周年記念行事

5/25(金)、6/26(土)2日間におわり東洋同文書院大学創立百周年記念行事が盛況、名古屋で行われました。25日、親友会の方約200名が来学されました。愛知大学豊田校舎学内見学、東洋同文書院大学記念センター見学をされた後、記念植樹、本岡喜一先生顕彰除幕式、記念式典が行われました。その夜ホテル日航豊田において祝賀会、愛知大学、愛知大学同窓会交歓懇話会が開催されました。その後、祝賀各期クラス会があり、親友会の方々は田交を促されました。
翌26日、愛知大学名古屋校舎現代中国学館を見学後、ウェスティンナゴヤキャッセルにおいて新島喜生先生による記念講演が行われました。「長江の涙は絶えず」
当面、親友会事務局は愛知大学東洋事務所に置かれ親友会は愛知大学同窓会の特別会員となります。なお、記念式典、講演の内容については次同文書院記念冊10号に掲載する予定です。この行事の記録ビデオ「夢は歴史を超えて」があります。ご希望の方は記念センターへ親友会事務局へお申込下さい。送料込みで¥2,000です。

↑ 開入書籍

新刊の東洋同文書院関係の書籍を記念センターではできるだけ入れております。会員のみならずから協賛していただいたものもあります。

Table with columns: 書名, 著者, 出版社, 発行年. Lists various books related to the university and its history.

↑ ホームページのご案内

東洋同文書院大学記念センター http://www.aichi-u.ac.jp/kinanhan/
親友会 http://kyukai.honna.jp/
霞山会 http://www.kazankai.org/

↑ 霞山会機関誌『東証』定期購読のすすめ

『東証』は財団法人霞山会発行の中国をはじめの東洋アジア諸国に関する専門研究誌です。定期購読料は¥6,400(年間)です。
申込先 〒100-0013 東京都千代田区豊島3-2-4 財団法人 霞山会 調査出版部
TEL 03-3561-0401 FAX 03-3561-0448

2002年7月25日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 12

発行責任者 愛知大学東洋学・中国学センター運営委員
TEL:052-47-4111 (内) 1818 FAX:052-47-4132

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご協賛いただきました。お礼申し上げます。2001年11月1日から新規加入、ならびに離脱されました方は以下のとおりです。(2002年7月25日現在)

氏名一覧 (受付順・敬称略)	
(法人会員継続)	登山会
(個人会員継続)	2001年度分 小林元彦 山上高行 山田啓代市 伊賀太吉 中野秋満 山口栄 藤井卓三 宮川龍 高井和伸 藤田順男 村岡正三
	2002年度分 藤井重雄 内田栄一 竹田宗雄 (協賛) (ハッピー個人賛助) 中島真司 (個人・個人賛助) 伊藤道夫 安藤孝 山崎秀一 小本智治夫 藤島香苗 坂本一夫
(新規加入)	平沼 賢司 (個人) 金井伸子 (個人賛助)

↑ 書院関係者・研究者からの問い合わせ…23件
主な問合せ…ご遺族の方(以下の方)より、祖父・父の手がかりを見つけたとの問合せが多数ありました。可能な限り調べ、お返事します。
日高4期・32期(茂樹様)、藤本清治30期(紀子様)、香取和作6期(敬徳)、佐藤貞司28期(克弘様)、竹崎孝徳(山田様子様)、金井隆三郎6期(時子様)、松岡翠月37期(翠月の有延、お結婚おめでとうございます)の方の写真にも写真がありましたらお知らせください。
名和文介様(岡志社様)、藤本直輝様より、研究会で同文書院のことを知り、記念冊・ブックレット等の送付依頼がありました。
松下啓男様(敬徳一)、藤久井光康(柏原文太郎)、岡田芳嗣様(清水安三)より、()に関する史料の問合せがありました。
また、他大学生の方からの問合せも増えてきました。

↑ 寄託物品
阿部弘福 寄稿・掛軸2本・資料等 箱1冊分、藤水達生様 寄稿1冊、
福江会 資料7箱、書籍3箱、福川正夫 寄稿1冊、北島桂一郎様 寄稿1冊、
松木信 (拾子) 様より、寄稿12冊いただいたており、たぐいまれ管理中です。

↑ センター取材
※NHK仙台局 山田貞敏・梶三郎の取材問い合わせ 12/25 (火)
※読売新聞西部本社 梅田吉吉の取材問い合わせ 1/24 (木)
※東日本新聞 (4/1 月) 取材 5/10 (金) 掲載
※NHK東京 (4/16 火) 4/23 (火) 取材
※読売新聞東京本社 (5/14 火) 取材 5/16 (木) 掲載
※朝日新聞 (5/12 金) 取材

↑ センター利用状況 2001年10月～2002年6月

月	学 内			計
	学外	個人	ゼミ (団体)	
10月	25	1	19 (1)	45(0)
11月	46	0	0 (3)	46(3)
12月	4	0	0 (0)	4
1月	1	2	0 (0)	3
2月	32	0	0 (2)	32
3月	4	0	0 (0)	4
4月	40	15	37 (3)	92(0)
5月	18	0	0 (1)	18(1)
6月	42	0	0 (3)	42(4)
計	213	18	56 (13)	287(11)

<予約参加記録> (敬称略)
11/17 京小浜町元野実大宿生会 8名
11/23 高部中学校 水口麗彦 他10名
11/29 南通市人民対外友好協会 8名
2/4 桜ヶ丘中学 梅村昌史 他12名
2/22 浜松厚生年金会 17名
4/4 豊八八会17名
4/8 飯沼野道期大生会 他3名
4/11 豊橋市役所 8名
5/20 霞山会 3名
6/4 中国大使館 3名
6/7 入試説明会参加者 5名
6/17 両部中学校 水口麗彦 他14名

↑ 購入書籍
新刊の東洋同文書院関係の書籍を記念センターではできるだけ入れております。会員のみさんから推薦していただいたものもあります。

書名	著者	出版社	発行年
帝國という幻想	ビナー・ド'ル/小林英夫	曾木書店	1998
近代日本のアジア論	岡本幸治	創想社	1998
ハルビン学院と滿洲国	芳地隆之	新泉社	1999
夢野さんによるしく	岡本正明	文芸春秋	1999
彼は空想の道を行く(上)	上原孝子	講談社	1999
彼は空想の道を行く(下)	上原孝子	講談社	1999
帝國の政治学	長瀬市政協文史和学委員会	自出版	1997
上海歴史地理	岡本誠	上海人民出版社	1999
開州における日本人経営の歴史	幸祐哲	創想社	2000
甘志湖湖沼環境と甘志湖日中競争下の管理・マカオ	甘志湖	創想社	2000
上海東亞同文書院大旅行記録	藤友心	藤友印刷出版(北京)	2000
アリン近衛院人事件	V.A.アルハンゲリスキー	新泉社	2000
↑上海東亞同文書院 風雲録	藤所正徳	角川書店	2001
20世紀の中国研究 その遺産をどう生かすか	小島登博・大風啓祐・松本雅博	研究出版	2001
旅の道く地を知らず 阿片王・項見福の生涯	岡本正明	創想社	2001
東洋同文書院大旅行記録	藤井由	上海書店出版社	2001
藤田吟香 資料から見たその一生	杉原 正	徳富書院	1996

↑ ホームページのご案内
東洋同文書院大学記念センター <http://www.aichu.ac.jp/institution/05.html>
福友会 <http://kyuuki.hoopo.ne.jp/>
霞山会 <http://www.kazanki.org/>

『東洋同文書院』定規購読のお知らせ
『東洋』は財団法人霞山会発行の中国をはじめ東洋アジア諸国に関する専門研究誌です。定規購読料は¥6,400(年間)です。
申込先 〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-2-4 財団法人 霞山会 図書出版部
TEL: 03-3581-0401 FAX: 03-3581-0448

2002年12月5日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 13

発行責任者 愛知大学東洋学・中国学センター運営委員
TEL:052-47-4139 (内) 1818 FAX:052-47-4190

↑ ごあいさつ
愛知大学東洋学・中国学センター長 藤田 佳久

このたび今年センター長にあつて、新しいセンター長になりました藤田と申します。いうまでもなく、当記念センターは平成5年4月に設立され、以降今年センター長のもとで、関係誌の発行や関係資料展示を中心に運営をすすめてまいりました。その間、書院の卒業生の方からは書院関係や中国関係の資料・および文献等をご寄贈いただき、また多くの励ましをいただきました。センターの発展途上への見学者も次第にふえ、幅広く、国内のみならず中国関係者など海外から訪問される方も増えつつあります。世の中で当センターが確立に認知されてきていることをうれしく思う次第です。
今後とも当センターの充実、発展に努めつつも、よろしくお願ひ申し上げます。

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご協賛いただきました。お礼申し上げます。2002年7月26日から新規加入、ならびに離脱されました方は以下のとおりです。(2002年11月30日現在)

氏名一覧 (受付順・敬称略)	
(個人会員継続)	2002年度分 松田 啓三 関谷 文次 飯田 ミドリ 高根 五郎

↑ 書院関係者・研究者からの問い合わせ…7件
中村健様より「白岩龍平が携った東奥関係の史料のタイトル・年代等」、木下博氏様より「丸島清・徳田文雄(同文書院関係)の史料」、大空社 西田和子様より「水尾竜造について」、杉浦様より「岩井英一について」、金丸裕一様(立命館アジア太平洋大学)より「同文書院の史料」に関する問合せがありました。
また、大倉精神文化研究所(平井氏)より原稿依頼がありました。
藤久保博明様(同文書院12期生 藤久保平一のご遺族)より、アルバムが見つかったとのメールが届きました。その後遺族はしていません。

↑ 寄託物品
阿部弘福より書籍1箱、東光書院 村上武雄様より 荒尾先生の遺品(血尿・尿尿)、松島輝男様(偉の真実の謎巻録)より、第9期卒業生アルバム・記念帖・集合写真を寄贈いただきました。
また尾崎茂彦様(同文書院41期生)が、「ふたつの荒野/文芸社」を出版され、寄贈いただきました。センターの方でも購入致しました。皆様もぜひご覧下さい。

↑ お知らせ
下記の表が、現在愛知大学が所蔵している東洋同文書院のアルバム及び、東洋同文書院記念誌です。今後さらに充実させていく為にも皆様のご協力をお願い申し上げます。

アルバム・東洋同文書院所蔵一覧

冊	名称	第1期所蔵	第2期所蔵	第3期所蔵
1冊	歴史写真集(東洋同文書院1期卒業生20年)	○		
5冊	東洋アルバム		○	○
6冊	東洋アルバム		○	○
7冊	東洋アルバム		○	○
9冊	東洋アルバム		○	○
20冊	東洋アルバム		○	○
21冊	東洋アルバム(東洋同文書院21期卒業生25周年記念)	○		
22冊	東洋アルバム		○	○
23冊	東洋アルバム		○	○
24冊	東洋アルバム		○	○
25冊	東洋アルバム		○	○
26冊	東洋アルバム		○	○
27冊	東洋アルバム		○	○
28冊	東洋アルバム		○	○
29冊	東洋アルバム		○	○
30冊	東洋アルバム		○	○
31冊	東洋アルバム		○	○
32冊	東洋アルバム		○	○
33冊	東洋アルバム		○	○
34冊	東洋アルバム		○	○
35冊	東洋アルバム		○	○
36冊	東洋アルバム		○	○
37冊	東洋アルバム		○	○
38冊	東洋アルバム		○	○
39冊	東洋アルバム		○	○
40冊	東洋アルバム(東洋同文書院)		○	○
41冊	東洋アルバム(東洋同文書院)		○	○
42冊	東洋アルバム(東洋同文書院)		○	○
43冊	東洋アルバム(東洋同文書院)		○	○
44冊(東洋同文書院)	東洋アルバム(東洋同文書院)		○	○

※欠号 2~4, 8, 10~19, 22~24, 35~39.

↑ 21世紀COEプログラムに『国際中国学研究中心』選ばれる
世界最高水準の研究教育拠点作りを目指す文科省の「21世紀COEプログラム」に、『国際中国学研究中心』設置構想が選ばれた。同構想は、大学院中国研究科を中核として、現代中国学部、国際問題研究所、中日大野山編纂所、東洋同文書院大学記念センターなどを統合して『国際中国学研究中心』(International Center for Chinese Studies = 略称 ICSS)を形成し、10ヶ国・地域の大学・研究機関と結び、中国学研究の世界的なハブ(拠点)センターを目指す。
今回選定された50大学113件の内訳は、国立大が31大学84件と全体の4分の3を占め、なかでも7帯大の占める割合が高くなっている。私立大は15大学25件と2割程度にとどまり、「国高私低」の傾向を呈する。地方に拠点を置き、しかも人文社会科学系の大学として愛知大学の「国際中国学研究中心」構想が選定されたことは注目すべきといえる。
スター研究者があつての選定でなく、東洋同文書院に歴史の礎を築る、幅広い息の長い中国研究、教学が評価されたことは、今後の研究活動に大きな励みとなる。
(愛知大学通信 2002年11月11日発行 第152号より)

2003年7月31日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 14

発行責任者 愛知大学東洋学文書院記念センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1815)
FAX 0532-47-4196 (内線 1819)

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご協賛いただきました。お礼申し上げます。2002年12月1日から新規加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです。(2003年7月31日現在)

氏名一覧(受付順・敬称略)	
<団体会員>	(財) 龍山会
<個人会員>	平沼昭司(個人会員から終身会員へ) 森下博(新規加入)
<個人会員継続>	2002年度分 小林元彦 山上高行 山田哲太郎 伊賀太吉
	2003年度分 山口栄 吉川順 高井和伸 藤田昭男 酒井順雄 伊藤直夫 越中孝 安藤孝 小本智治夫

↑ 書院関係者・研究者からの問い合わせ・6件
阿部洋博より大内鏡三・宇田直良、一宮房次郎、柏原文太郎の生没年月日等についての問合せあり。

戸倉勲雄様(同文書院 22 期・戸倉助人の息子)より同文書院の院歌等のテープまたは CD が欲しい。

伊田直太郎様(同文書院 34 期吉川一之助)より兄の大旅行記録をかりたい。

愛知県松山市校所産産経済部 坂の上の雲まじづくりチームより問合せあり。日露戦争時に山田純三郎と係わりがあったと思われる秋山真之の史料がないかとの問合せ。

雄城 真 様(同文書院 32 期)の名前の字は要ではなく直ったはずなので四で欲しい。

東三河研究センターより 1 期か 2 期の人で外務省に入りモンゴルの大使・マドラス総領事・龍山会に関係した人物を調べて欲しい。

↑ 寄託物品
阿部弘様より京尾関係史料及びその他書籍(ヨーロッパ写真集)・史料。
中津川雄雄様(同文書院 36 期・中央アジア・ウズベキスタンで死亡した中津多賀夫の弟)より現地へ行き記念碑を建立したときの資料。

戸倉勲雄様より『南北の影 父を慕いし五十年』戸倉勲雄著(書籍)。
森下博様より『北京開港会』『中日見聞録』『旅歴の歩み』/森下博編(書籍)、その他書籍。

山田信男様より『広東海軍武官府の経緯 一附・東亞同文書院の「大旅行」一/山田信男著・山田俊明編』

河辺育三様より『らしやう門 9・14 号/名古屋学生会誌』

このたび、村上 真 様より根岸先生肖像画(出版)の修理のために30万円の寄付金をいただきました。ありがとうございました。

↑ ご案内

現在、以下の日程でシンポジウムを予定しております。なお、発着費を交えての懇親会もごさいすので、皆様お集まりあわせの上多数のご参加をお待ちしております。
詳しい内容は追ってお知らせ致します。
また、記念写真集も発行予定しております。オリジナル資料や、その他未公開史料を載せております。発行は10月25日予定しております。

東亞同文書院大学記念センター設立10周年記念シンポジウム(案)

記念センター10周年を迎えるにあたり、記念センターの存在とその歴史的内容について広く知ってもらい、評価してもらおうとともに、今後の記念センターが扱う役割やその方向について多面的な発展と議論をすすめたい。

日 時	2003年10月25日(土) 13時30分~16時30分頃
場 所	愛知大学 記念館3階 小講堂
プログラム	発着費 3名予定
共 催	同窓会・漢友会・龍山会・ICCS
参 加 費	無料

↑ 記念品 13号以降の原簿係属!

テーマ
「同文書院の中国語教育と学生生活の指導」
400字詰め原簿用紙 20枚程度
締め切り 2004年7月
※ 次号12号は、シンポジウムの内容を掲載する予定です。

↑ 夏休み期間中の閉館日時のご案内

以下の日は閉館しております。何かございましたらお気軽にお問合せください。

日	月	火	水	木	金
8月3日	8月4日	8月5日	8月6日	8月7日	8月8日
		8月12日			
			8月20日	8月21日	8月22日
					8月29日
	9月1日	9月2日	9月3日	9月4日	

閉館時間 13:00~16:40 (TEL 0532-47-4139 FAX 0532-47-4196)

2003年12月18日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 15

発行責任者 愛知大学東洋学文書院記念センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1815)
FAX 0532-47-4196 (内線 1819)

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご協賛いただきました。お礼申し上げます。2003年8月1日から新規加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです。(2003年12月15日現在)

氏名一覧(受付順・敬称略)	
<個人会員>	松下智博(新規加入) 加藤聖朗(新規加入)
	大野すみ(新規加入)
<個人会員継続>	2003年度分 内田栄一 前島省吾 雨谷文次 高井卓三 杉山祥義(新規加入)
	坂本一夫 小林元彦 山上高行

↑ 東亞同文書院大学記念センター10周年記念シンポジウム
一書院と原文から近代中国探る - 藤田 佳久
10月25日(土) 本学の「東亞同文書院大学記念センター」主催の10周年のシンポジウムが記念館講堂にて開催されました。

1991年に東亞同文書院記念基金が設けられ、書院と愛大の統合が大幅にすすむ中で1993年に同センターが設けられ、6年後に旧本館1階に「大学記念館」としてセンターの展示室が設けられました。そこでは書院史の展示とともに山田貞政・純三郎兄弟の展覧会資料を整理した純三郎氏因縁図説から新編された展覧会コレクションが展示されています。シンポジウムは同センター10周年を記念して行われたものです。

当日のシンポジウムでは、書院・愛大を卒業し、外務省で活躍された小崎昌良氏の「東亞同文書院出身者と日中国関」、龍山会大学講師で書院の研究もされている奥田尚氏氏の「近代史の中の東亞同文書院」、漢文研究第一人者で愛知通信大学名誉教授の藤井昇三氏の「漢文と近代中国-日本・アジアへの視角-」がそれぞれ講演されました。小崎氏は書院卒業生の行政界での活躍にふれ、日中戦争に反対した石村権太郎らでつれた外交官などを紹介され、また奥田氏も戦後の書院に対するイデオロギー的評価をその実像を示すことによって批判的に紹介されました。藤井氏は日目的であった原文の思想や行動基準が日本の対中政策が変化する中で変化したことを明らかにされました。

なお、途中経済学部長がICCSの専断で訪問されたアメリカ著名大学で書院が広く知られ、中日大群像も十分利用されていることを強調して発言され、関心を呼びました。また講演後、発着者3人のフォーラムもい、会場との意見応答も活発に行われ、夕刻からの懇親会では70余名の出席者間の交流が行われました。会は100名を超す多数の出席者を迎える以上の盛況で、センターがこの日に備えてパンフレットとともに作成したセンターの収蔵資料図録も売場よく売れました。

↑ 書院関係者・研究者からの問い合わせ <敬称略>

日付	依頼者	問い合わせ	返信
8/3	伊藤佳寿子(37期伊藤久生の娘)	伊藤久生(37期)の大旅行の記録について	37期はなし
8/8	橋本 孝(広島国際大学経済学部長)	東亞同文書院大学史の目次について	コピー送付
9/30	山崎啓明(NHK文化情報番組)	漢文関係の資料の目録について	記念館・国際関係研究部宛送付
10/1	東原子(40期前編の妹)	前編(40期) 学編原簿用紙について	学編原簿用紙コピー送付
10/3	白井史朗	同文書院を受験し、合格したが行けなかった。その時の資料はあるか。	なし
10/14	小泉真知子	おじの原簿が同文書院蔵書を探るためについて。	教授を促すという資料はなし
10/25	倉橋啓子(おじが同文書院出身者)	シンポジウムのレジュメについて	シンポジウムのレジュメ送付
10/30	蔀(真山記念館)	写真の借用について	愛大収蔵と明示を条件に承諾
11/26	南山大学図書館	順天時報 1901~1906 年頃の新聞について	なし

↑ 寄託物品 <敬称略>

8/20	今井清一	尾崎秀真「愛憎はふる星のごとく」有線429号・交際通信6号
9/29	徳島県立資料館	紀要 20・21号
10/7	龍山会	上海留留民三十五周年記念誌・東亞同文書院関係資料
10/7	阿部 弘	書籍
10/14	漢文研究会	漢文研究会 34号
10/25	高橋三郎	定章・定章
10/25	龍友会	東亞同文書院大学収蔵(分セットテープ)
10/26	阿部忠彦	漢文化・中国語文・漢文・漢文ニュース
11/23	戸倉勲雄	「ダグラス・マッカーサー元帥記念古文書保存館」にある藤井君経典の資料(コピー)3通

↑ センター取材

さる12月10日産経新聞社会部の上原記者が来館され、展示見学および、藤田先生へのインタビューが行われました。今回の取材の目的は「愛知大学VS大東文化大学」の特集記事を書くため、名古屋校舎から産経校舎へ2日間かけての取材でした。
内容は①愛知大学における中国語教育の現状(これまでの取り組み含む) ②中日大群像編について(編纂の経緯と現状および今後の展開) ③現代中国語の教育研究の特色と展開についてでした。なお、記事掲載日は1月中旬予定です。

愛知大学東洋学文書院の収蔵資料

テーマ
「同文書院の中国語教育と学生生活の指導」
400字詰め原簿用紙 20枚程度
締め切り 2004年7月
※ 次号12号は、シンポジウムの内容を掲載する予定です。(3月下旬発行予定)

2005年6月25日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 18

発行責任者 愛知大学東亜同文書院大学センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1816)
FAX 0532-47-4198 (内線 1819)

↑ 今も多くの賛助会員の方にご継続いただきました。お礼申し上げます。2004年8月1日から新風加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです (2005年5月25日現在)。

氏名一覧 (受付料・敬称略)	
(個人会員継続)	2004年度分 吉川 嗣 小本留治夫 坂本一夫 杉山好英 小林元彦 山上義行 伊賀太吉
(個人賛助会員)	2004年度分 廣 英吾 (新風加入)

↑ 谷光隆興「東亜同文書院 阿片資料集成 CD-ROM版」刊行のご案内
谷光隆興氏が、愛知大学に在学中に皇朝博物館の蔵山文庫で収集された「阿片問題」に関する資料をCD-ROMにまとめたものです (定価 18,000円+税)。

発行は当センターとなっておりますが、発売は御あるむです。ご注文は下記へお願い致します。

御あるむ

〒460-0012 愛知県名古屋市中区千代田3-1-12 第三記念ビル
TEL 052-332-0861 FAX 052-332-0862
http://www.arup.co.jp E-mail: arms@n.email.ne.jp

↑ テレビ百科の戦後60周年特別企画「FNSドキュメンタリー「戦時・中国人強制連行の真相(仮題)」に、同文書院44期生専門部の新名吉志氏が取り上げられます。

太平洋戦争中、日本政府・軍は戦争で不足した労働力を補うため、中国大陸より多数の中国人を日本の鉱山や工場で強制労働させた。日本全国135の事業所で強制連行された中国人は約4万人、日本国内で7千人近い人が死亡したといわれている。その事実のひとつである宮崎県炭峰鉱山では山東省を中心に強制連行された250人が1946年2月～1946年8月15日(終戦)まで労働し、67人が死亡した。特に多かったのは山東省の人だった。

日本が敗戦を迎えた直後、全国各地の中国人強制連行事業所にて中国人の暴動が起こったのに対し、炭峰鉱山は一切暴動が起こらなかったといわれている。その理由には、中国人強制連行者の選択として炭峰鉱山にいた東亜同文書院生・新名吉志氏が存在があった。企業の人間的な扱いとは対照的に、中国人を温かくかばい、食料や生活の事を親身になって鉱山側にかけあつたとされている。なぜ彼は当時の思想を超越した人間的な行動をとることができたのか、その謎を解く鍵は、彼が学んだ東亜同文書院大学の存在があった。

※ 放送日等は未定です。大枠としては、炭峰鉱山中国人連行に関する番組です。取材過程で新名氏の存在を知り彼の足跡についても取り上げていく予定です。
(テレビ百科制作部・担当ディレクター馬原弘樹氏、当初の企画より引用)

2005年7月25日発行

愛大同文書院記念センター通信 No. 19

発行責任者 愛知大学東亜同文書院大学センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1816)
FAX 0532-47-4198 (内線 1819)

↑ 今も多くの賛助会員の方にご継続いただきました。お礼申し上げます。2005年5月25日から新風加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです (2005年7月25日現在)。

氏名一覧 (受付料・敬称略)	
(団体会員継続)	2005年度分 (財) 嵐山会
(個人会員継続)	2005年度分 登井孝三 吉川 嗣 藤田賢男 酒井道雄 伊藤浩夫 小本留治夫

↑ 問い合わせ・取付一覧

日付	内容	返信
5/20	テレビ百科取材/資料撮影	
6/13	中日新聞/東亜同文書院大学について、現在学生が学んでいること、	李春利教授の学習法を紹介
6/20	中日新聞取材	
6/29	毎日新聞福岡支店/上海毎日について	なし
7/8	大同(同文書院)教授について	送達部分コピー

↑ 寄託物品

日付	内容
6/16	書籍1箱 『東亜同文書院大学史』・卒業アルバム他
7/8	柳家 Ryojo 第3号 大同学院二世の会会報
7/8	国立近代史館 雑誌 第15期
7/14	写真集 建國大学
7/14	建國大学同窓会会報 40-44, 47, 51-53, 57-62, 65-67, 69-70, 72-74号
7/14	福柳 31-36号

↑ 公開講演会のご案内

昨年度より「大陸にあった高等教育機関研究シリーズ」と題して、公開講演会を開催しております。今年度は当初ハルビン学院を取り上げる予定をしておりましたが、都合により建國大学へ変更することになりました。講師は桑原亮人氏(建國大学卒業生・元日本経済新聞社)と、もう一人お招きする予定です。多数のご参加をお待ちしております。

日時: 2005年11月19日(土)午後2時～

場所: 愛知大学豊田校舎本館5階

↑ 2004年度を振り返って

2004年度は当センターにとって多忙で充実した1年となりました。

まず、8月に名古屋の榎木家から榎木俊一氏所蔵の漢文の書など大変貴重な資料5点を寄贈頂きました。この寄託を受け資料調査を行い、11月20日(土)～12月11日(土)まで特別展を開催致しました。記念センターとしては開館6年目にして初めての特別展ということもあり、展示に当たっては榎木家資料修復を担当して頂いた登壇の呂生さんにご協力頂き、特別展を無事終えることができました。多数の新聞に取り上げられ、内覧会を含めて約110名の来館者を迎えることができました。しかし、「こんなところがあったんだ」という意見も多く頂き、まだまだ地元の人にも知られていないことを知り、広報活動に努めていく必要性を感じた特別展でした。

また昨年度より「大陸にあった高等教育機関研究シリーズ」として2004年11月20日(土)に公開講演会を行いました。第1弾として「北京同文書院から北京経済専門学校へ」と題して、広島大学名誉教授の石田茂先生をお招きしました。予想を超える多くの来聴者に、スタッフ側もあわてて机と椅子を増やしたことを御明に記憶しております。同文書院生と異国語院生のつながりや、石田先生の人間ネットワークの広さに驚き、新たな出会いに感銘した講演会でした。

次に、本学図書館の成瀬さよ子さんが2004年秋に東亜同文書院関係資料の収蔵状況調査のためアメリカ州大学を訪問されました。この報告会は当初学内でのみ行う予定でしたが、当センターとしては学外の同文書院に関心のある方々にも参加して頂きたいと、12月11日(土)に公開研修報告会を開催いたしました。12月半ばの忙しい日程にもかかわらず多くの来聴者を迎えることができ、改めて東亜同文書院への関心の高さを知った次第です。

さらに昨年度初めての試みとして、東亜同文書院記念基金の支援を受け、本学の学生に「東アジアの持続的発展と日本の役割、そして私」というテーマで論文を公募いたしました。14名の応募があり、運営委員より推薦を行いました。その結果日本人の部では国際コミュニケーション学部3年の富谷佳央(ふかやよしひ)さん、また留学生の部では韓籍学部3年の白登(バイ・ルン)さんが最優秀賞に選ばれました。惜しくも最優秀賞を逃したLE THUY DIRU UYEN(レー・チュウ ユー・ウィン)さん・杜春彦・藤原祐子さんの3人は優秀賞に選ばれました。3月24日(木)に豊田校舎本館で行われた表彰式では、東亜同文書院記念基金(岡山県理事)の北川文庫会長より表彰状と謝辞が授与されました。また受賞後、学生との意見交換も行われ、論文執筆の際のエピソードや記念センターへの要望など、学生から新たな視点で意見を聞くことができ、大変有意義な時間を持つことができました。今年度も新たなテーマで公募できればと考えております。

このように、さまざまな事業を無事終えることができましたのも会員の皆様のご協力のおかげです。本当にありがとうございます。また上記の詳細な内容は、同文書院記念誌13号に掲載しております。ぜひご覧下さい。

さてお祝いですが、先月お送りしました成瀬さよ子氏「東亜同文書院関係目録」は多数の御関係もあり賛助会員様のみお送りしております。この機会にぜひ未加入の方に賛助会員ご入会をご案内申し上げます。

2005年度もさらに新たな事業が始まります。当センター発展にご協力下さいませよう、お願い申し上げます。

↑ 東亜同文書院の「大旅行誌」を学ぶ

愛知大学経済学部・李春利教授の学習法が、「学生之新聞」【中日新聞2005年7月19日(火)】に紹介されました。以下、記事の内容をご紹介します。

敬告、中国・上海で中国の専門家を育成した「東亜同文書院大学」。戦戦ともに強校となり、間もなく60年がたつ。日本初の海外高等教育機関として、約40年にわたり多くの人材を輩出し、「大旅行誌」と評された。その後身の愛知大学(本部・愛知県豊田市)で今年から、専任生がまとめた「大旅行誌」を教科にした講義が始まった。歴史認識をめぐる対立に前道の光が見えない日中国関係。先輩たちの貴重な中国の経験を前に、現代の学生たちには何が見えてくるのか。何を学ぶのか。

「中国は歴史が選れ、築いていなかったようだ」、20人の学生を前に、「大旅行誌」を讀んだ男子学生が胸を打たれた。中国・雲南省で、習性が生徒の手入れのために葉を取り出すと、押しそうに地元の人たちが集まり、日や晒れ物の治療を頼まれたという、講義を受け持つ李春利教授(42)＝中国出身。産業経済学＝は「雲南省は運送船気候で、漢方薬の宝庫」と指摘。日本のように西洋医学が浸透していなかった中国の真実を伝えた。

この講義は経済学部(豊田校舎)の1年生が各クラスに分かれて受講する「学習法」の1つ。同僚の仕方よりレポートの書き方の基礎を学ぶ。米國でも研究を積んだ李教授は、戦前の中国で民衆の生活を支援につづつた「大旅行誌」を貴重な資料だと評価。これまで、同大学でも講義に使われることはなかったが、「欧米や台湾でも評価が高く、せっかくだから生かしたい」と導入を決めた。

「大旅行誌」は、明治末期から戦時中までは5回発行、700コース近くを5人ほどの班に分かれて歩き回り、まとめた「フィールドワークは社会科学に必須。同じ年代の若者の足跡をたどり、参考にしてほしい」と李教授。

全38巻のうち、今回は第28期生編「千山真田」の豊南四川遊歴編・1931年(旅行年)を選んだ。文中には、学生の関心を引く、生き生きとした記述が多い。「既先で出会った商人に仁を贈ると、お返しにアヘンを渡され、驚いた」「トイレが終わった子どもの尻を犬に掃除させていた。衛生上の問題を感じた」。学生は自分でキーワードを見つけ、時代背景を考える課題を履む。

雲南省の紙幣を四角で取り取ってもらえなかったことに苛立つると、李教授は「各地方で自治性が強く、下の方が好まれた。紙幣はインフレで紙くずになり、硬貨より値が安い」と解説。厚紙は見つけた紙幣を伊にくべようとしたら、現地の人に止められた。との出来事については「天賦異禀は豊田だが、それを生かす知識が浸透していなかった」。列強に国土を分割された中国の近代史と重なるようだ。

もちろん、高校を卒業したばかりの新生入生にとって70年前の資料を原文で読むのは簡単ではない。「団(株)」や「團(組)」といった具合に漢字はすべて田字株。1、2頁を現代語に訳すに「少なくとも3時間はかかる」。ある男子学生は文中の「鬼に角版」を「うさぎにきどめし」と誤読し(正しくは「とくかくめし」)、教室中に笑いが起きた。四苦八苦しながらも、知識あついても取り組む。先日の講義中、「雲南省の奥地で女の子が丸髪。男の子がおかつく髪にしている」との記述に注目が集まった。「日本と正反対。不思議ですね」と出席した学生たち。問い掛けられた李教授は、少し間を置いた後、首をかしげた。「阿でかな。(中国出身の)僕も分からない。答えは、これからゆっくり探していくことになりそうだ。(豊田支局・丸田健之)

※今後このセンター通信で、この授業で提出された学生レポートを随時掲載する予定です。

愛大同文書院記念センター通信 No. 20

発行責任者 愛知大学東洋文書院大学記念センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1815)
FAX 0532-47-4196 (内線 1819)

↑ 今回も多くの賛助会員の方々にご継続いただきました。お礼申し上げます。2005年7月26日から新報加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです(2005年12月6日現在)。

氏名一覧(受付順・敬称略)

(個人会員継続)	2005年度分	安武 孝 坂本一天 杉山好美 山上高行 小林元彦
----------	---------	-----------------------------

↑ 問い合わせ・取材一覧

日付	内容	返信
8/2	高野聖一(日語貿易研究所)について	記述部分コピー

↑ 寄託物品

日付	内容
2/74	広瀬清彦 漢詩詩話 CD-ROM 高野聖一関連資料
5/27	書籍3冊
10/3	文集 残された記録 PART II / 橋本浩二著
10/4	二つの国の狭間で 中国残留邦人聞き書き集 第1集
10/5	日中関係のかけはし一休庵可亮・張擇彦追悼文集
10/18	書籍1冊
10/20	ハルビン新留物館
10/27	『東亜同文会における「運邦保全」構想』/ 前掲ほか資料
11/21	孫文研究 35 2005.9
11/28	国立国史館 館刊 第16期

↑ 大盛況に終わった「満洲にあった建國大学」

去る11月19日(土)、当センター主催の講演会「満洲にあった建國大学」を開催いたしました。天候にもめぐる、約100名の参加者を迎えることができた盛況で終えることができました。建國大学は戦前、満洲国における文科系最高学府として創設され、わずか8年で満洲国の旗幟により開学した大学です。当日は、建國大学の研究者である宮沢忠理子氏(国際基督教大学アジア文化研究所研究員)と、建國大学の同窓生である桑原亮氏(建國大学第4期生・日本経済新聞元総務部長)をお招きし、建國大学の歴史や教育内容について、貴重な写真や体験談などを交えながら講演をいただきました。後半には質疑応答もあり、参加者からは次々と質問が出されました。なお、参加者からのアンケートの一部をご紹介します(要領へ)。

↑ 「満洲にあった建國大学」ご意見・ご感想

- ★ 戦後に日本にあって建國出身・存学に関して当事者が語ることが少なく、報道も無視、世間も無関心であった点は否めない現実でありました。本日は当事者があからさまに思いを語って頂き、関心を持つ方にとって大変嬉しいご講演でした。(65歳・男性)
- ★ 建國大学はまったく後身がないとは淋しい限りでしょう。中国人も学んでいたのですから、中国が後を引受けてもいいのではと思いますが、中国人の思いはいかにあったのでしょうか。
- ★ 初めて建國大学の話を聞き、非常に興味深く聞くことができました。ありがとうございます。(67歳・女性)
- ★ 愛知大学創立時に、京城帝大、台北帝大、ハルビン学院などのスタッフも集まってきたとかつてのパンフレットに書かれていたが、今はあまり取り上げていないようです。これらの大学と愛知大学の関係に光をあててほしいと思います。中国だけでなく、韓国、台湾、ロシアとも繋がりがつづいていることが認識されることは、それらの国からの留学生にも好感度を考えることにつながると思います。(40歳・男性)
- ★ 時の為政者は過去を平らげとせず、一業団内の上下関係から想像になって寂しい、それを外交でも上下関係からモノを言う態度を改め、他民族協和を宣言一致して欲しいと切に願う。(66歳・男性)
- ★ 石原莞爾は、理想としては高いものではあったが、日本人中心でアジアを考えたことに間違いがあった。戦後の経済の復興を考えれば、近い朝鮮、中国、東南アジア諸国と仲良く共存発展することが日本の道だと考えた。(63歳・男性)
- ★ 未だ知る人少ない建國大学について紹介する機会を与えていただいたことを深く感謝しております。宮沢先生のまますももなご講演、桑田先生のまますももなご講演の基に建國大学の歴史の一端としては、せめてご志を述べたいと願っております。(64歳・男性)
- ★ 建國大学のことについては全く知らなかったが、今回の講演会で少しわかった。機会があれば、建國大学のあった所を訪問したいものである。今後も、中国にあった日本の大学についての講演会があったら参加したい。(男性)
- ★ (宮沢先生) 建國大学の波瀾万丈な歴史を知ることができ、とても有益なお話でした。当時も今も「異文化コミュニケーション」が如何に大切かよくわかりました。(桑原先生) 当時の日本人青年の気遣いや言動が忘れられない。信念には圧倒されています。それに反して今日の日本人の若者はいかにも「ひよわ」に映ります。先生の青年期の人生経験は生きた歴史教育で、極めて貴重でした。大きな感銘を受けました。(63歳・男性)

今年も残すところあと僅かとなりました。寒さも一段と厳しくなってきましたので、お体には十分お気をつけてください。なお、年末年始休館日は、2005年12月27日から2006年1月5日までとなっております。来年もご支援ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。どうぞ良いお年をお迎えください。

愛大同文書院記念センター通信 No. 21

発行責任者 愛知大学東洋文書院大学記念センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1815)
FAX 0532-47-4196 (内線 1819)

↑ 今回も多くの賛助会員の方々にご継続いただきました。お礼申し上げます。2005年12月6日から新報加入、ならびに継続されました方は以下のとおりです(2006年5月17日現在)。

氏名一覧(受付順・敬称略)

(団体会員継続)	2006年度分	(留) 藤山会
(個人賛助会員)	2005年度分	伊賀太吾(個人から賛助会員へ)
(個人会員継続)	2006年度分	安武 孝

↑ 問い合わせ・取材一覧

日付	内容	返信
1/24	東洋同文会経営、朝鮮の学費の資料について	刊行書籍
4/11	上海の書院のあった場所について	地図コピー
5/15	親父の在籍確認・書院の場所について	関連資料コピー

↑ 寄託物品

日付	内容
12/14	日本領民証上海
12/16	笠原の山の旗揚げて: 古蹟記念: 押し花パートII/ 池田裕子
1/10	ワイルド・スワン 上・下/ ユン・チアン ほか資料
1/23	横浜とバンクーバー 太平洋を越えて
1/23	筆跡学集 第1〜3集
2/16	第八屆中山與現代中國學術研討會論文集 孫中山與中國現代化學術研討會論文集 孫中山與日本殖民時期台韓政治社會運動學術研討會論文集
3/28	第2次大戦期 興亜院の日本語教育に関する調査研究
4/1	支那時文編 第1輯 現代支那尺牘教科書 四部叢編 ノート
4/17	大倉山論集 第52輯
4/20	南港都市研究(創刊号)
4/21	横浜開港資料館 紀要 第24号・資料総覧
4/24	中国の赤い星 趙ノエドガー・スノー著作5冊
5/8	大中華民族分省図
5/11	マオ 誰も知らなかった毛沢東 上・下/ ユン・チアン
5/12	我人生に悔いなきや/ 粟木辰男 中国中産階級調査

↑ 当センターのプロジェクトが文部科学省学術研究高度化推進事業に選定されました。

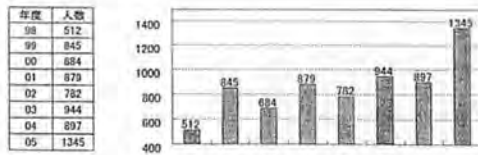
東洋同文書院大学記念センターの研究プロジェクト「愛知大学東洋文書院大学記念センターの情報公開と東洋同文書院をめぐる総合的研究の推進プロジェクト」が、文部科学省の平成18年度私立大学学術研究高度化推進事業(オープン・リサーチ・センター創設事業)に選定されました。このプロジェクトは、東洋同文書院大学について「研究成果の公開と未整理史料のデータベース化」、「公開情報・データベースにもとづく展示施設整備実地などを中心に、あわせて研究の進展」を目的としています。5か年の計画で、シンポジウムや公開講座の開催、および全国5か所での学術資料・研究成果の展示をはじめ、愛知大学の若手研究者の育成もめざします。

↑ 2005年度センター展示室利用状況

月	学外		学内		計(56名増)	
	人数	ゼミ	個人	ゼミ		
4月	41	5	146	(11)	192(0)	(ゼミ7クラス)
5月	40	11	30	(5)	131	(ゼミ4クラス)
6月	213	7	56	(8)	276(2)	(ゼミ3クラス)
7月	281	4	0	(2)	285(13)	
8月	31	2	0	(2)	33(0)	
9月	78	2	4	(1)	84(1)	(ゼミ1クラス)
10月	118	8	0	(3)	124(4)	
11月	89	9	0	(3)	98(11)	
12月	39	9	5	(3)	53(5)	(ゼミ1クラス)
1月	12	3	0	(0)	15	
2月	10	5	0	(0)	15	
3月	33	6	0	(1)	39(3)	
計	955	69	291	39	1345(54)	

※ 授業での利用はすべてゼミとする。

↑ 開館からの利用者数の推移



昨年度の展示室利用者は、学外からの見学会や授業やゼミでの利用が増え、前年までと比べて飛躍的に伸び、1,000人を大幅に超えました。今年度は新たな事業も始まり、より多くの方に利用されることが見込まれます。さらなるセンター発展のため実現した年となりますよう、引き続き皆様のご指導ご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

2006年10月16日発行

愛大 同文書院記念センター通信 No. 22

発行責任者 愛知大学東洋同文書院大学記念センター運営委員会
TEL 0532-47-4139 直通 (内線 1815)
FAX 0532-47-4196 (内線 1819)

↑ 今回も多くの賛助会員の方にご支援いただきました。お礼申し上げます。2006年5月17日から開院されました方は以下のとおりです(2006年10月16日現在)。

氏名一覧(受付順・登録順)	
(個人賛助会員)	2006年度分 前田良男 (個人から賛助会員へ)
(個人会員継続)	2006年度分 吉川謙 伊藤浩夫 内田崇一 西井重雄 藤井収三

↑ 問い合わせ・取材等一覧

日付	内容	返信
5/25	父の書院入卒年と書院の場所について(電話)	地図等添付しメールで回答
6/15, 16	書院の神護出身者について(来館)	関連書籍等コピー
7/4	既婚者訪問資料について(来館)	前田もつとと村岡、資料コピー
7/13	上野の日本人について(来館)	関連書籍資料あり
8/8	中日新聞 書院について取材(来館)	9/8紙面に「愛大が築く中国との絆」と題して掲載
8/22, 24	書院に日系米人がいたか(来館)	資料なし ご存知でしたらお教え下さい。
9/11	冠婚葬儀関連文庫を載せて欲しい(電話)	リストを作成し FAXで回答

↑ 寄託物品

日付	内容
6/15	日露戦争百年 神護人と中国の戦場/又吉盛博 神護初の外交官 田嶋盛徳展覧会 酒造り時は破れて 月山時勢/村岡正三
6/19	勝なる日本人 語文革命と山田良政・純三郎/結城博治 民主権国 アメリカの異業に追いつく/毎日新聞取材班 宮崎元助伝 完結編/上村常典 人物の輝/岸原八島園影記念会 2冊
7/3	国・茶屋
7/4	中国語の作り方/垣根武
7/10	只見開院七周年史/菊池四郎 栗和への贈り-純三郎13年の記録-/中島哲彦
7/11	語文研究 39 2005.3
7/12	国立国史館 館刊 第17期
8/21	横浜開港資料館所蔵 衛生貞太郎文庫目録 第1集 和蘭書・史料・地図
9/1	ユン・チアン関係資料
10/3	中国へのノスタルジア 戦時下の福州と広東/菅子晋子

↑ 資料が損傷で公開されます

11月20日(月)~22日(水) 横浜板木町みなとみらいのバシフィコ横浜で開催される図書館総展、愛知大学ブースにて『知を愛する者が築く「愛知大学」の特別展示会: 遺された東洋同文書院の資料を遺す』と題しまして、当センターの所蔵資料を展示公開いたします。21日のフォーラムでは藤田センター長はじめ3名の講演会もごさいます。フォーラムは事前予約が必要ですが、展示会は当日受付可能ですので、是非この機会にご覧下さい。

↑ 講演会が開催されました

7月22日(土) オープンリサーチセンター最初の事業として講演会を開催いたしました。東洋同文書院 25 周年で今年 100 歳を迎えられた安藤隆雄氏を講師にお迎えし『東洋同文書院と我が生涯の 100 年』と題し、東洋同文書院の入学から在学中の寮生活・行事・授業、百南からビルまでの大旅行、その後の豊かな人生をお話しいただきました。講演後には書院の後輩である校友会の方たちが大旅行の歌『旅の歌』を贈り、宴歌『暮る、高城の』を確き終了いたしました。

梅雨の晴れ間となったこの日 100 名近い来賓者を迎えることができました。皆、一様に安藤氏の 100 年の充実した人生を誇りまたお元気なお姿に感動を受けたようでした。寄せられましたご意見・ご感想を一部ご紹介いたします。

- ◆ 書院の存在は理想的なものであったと思う。そうした新しい大学の創造を願います。
- ◆ 実際の体験を聞く機会は少ないと考えます。特に戦前のお話を聞く機会はこれから増えることは残念ながら決してありません。本日のお話は愛知大学の学生こそ聞くべきで、若い方が少ないのが残念です。
- ◆ 大旅行の興奮も、この様に聞く機会がなく、興奮がありませんでしたが、身運なものに感じることが出来、勉強になりました。
- ◆ とにかく非常にこと細かく当時の様子を話されるのにはびっくりしました。目をつぶってついこの前のように思い出するように話される姿に歴史の奥深さと重みを感じました。同文書院の学内の様子、寮生活、先輩との関わり合い、部活動等、大変興味深く聞かせていただきました。旅道を通して培った心身が今百歳まで元気なおられることに参考になりました。安藤先生のように後が人生に悔いなしと自覚するように今後も頑張っていきたい。
- ◆ 百歳の方とお話とは思えないほど、記憶力の素晴らしさとお元気な姿に圧倒されました。祖父が書院生だったこともあり、今日のお話をとても楽しく拝聴いたしました。祖父の祥命中にもっといろいろな話を聞いておけば良かったと思いました。今後の講演会も楽しみにしています。
- ◆ 書院時代の 39 日におよぶ旅行、それも観光でなく異域のような旅行を仲間と共にすごされたことに驚いた。柔道や相撲→ダンス、ウォーキング、日本舞踏をやり続けたとは 2 度びっくりです。85 歳からスタートされたこともびっくり。健康な体があってこそ、自分をきたえていきたいと思いました。

今後、オープンリサーチセンターとして様々な企画が予定されており、(展示会、講演会、シンポジウム、研究会等) 開催時にはお知らせさせていただきますので、ご参加お待ちしております。また、掲載面では館内の改装が進んでおり工事等でご迷惑をお掛けするかも知れません。ご理解ご協力をお願いいたします。